

町制施行 120 周年を 迎えて



湯浅町長 上山章善

本町は、明治29年6月22日に町制を施行したことにより湯浅町が誕生し、昭和31年には田栖川村との合併を行い、現在の町の形が出来上がり、大きな発展を遂げてきました。

わがまちがこのような伸展したのも、多くの諸先輩の湯浅を愛する心とたゆまぬご尽力の賜物と言えます。脈々と受け継がれてきた志に敬意と感謝の気持ちを抱き、ふるさと湯浅のまちづくりを進めることで、恩返しができると思っています。

これまで、「誇れる郷土とともに創造 安心安全のまち湯浅」をスローガンに掲げ、長期的な展望に立ったまちづくりを一步一步進めてまいりました。恵まれた自然の中で、住民一人ひとりが安心して安全に暮らせる環境を守りながら、豊富な資源を活かして本町への人の流れを作り、賑わいを創出し、調和のとれた住みよいまちの新たな出発点となるよう努めるとともに、魅力ある観光都市を目指してまいります。

町制施行から120年という歴史を重く受け止め、町民の皆さまが、この節目の年を通じてより一層地元に着愛を持っていただくことを願うとともに、これからの湯浅町の更なる発展に引き続きご理解、ご協力をお願いし、皆さまと力をあわせてまちづくりに専念してまいりたいと思います。





湯浅町教育委員会教育長

垣内 貞

湯浅町は、本年町制120周年という記念すべき年を迎え、ますますの繁栄を祈念するとともに、町民の皆さまの「住みよい元気な湯浅」のために御支援、御尽力たまわらんとをお願い申し上げます。

さて、教育面におきましては、ここ数年の間に町内全小中学校は新築または耐震補強で、どの学校も見違えるように立派になり、湯浅小学校講堂などは、昭和の始め、子ども達が自分の小遣を節約して、月に1銭の貯金から始まり、築80年。当時は県下一の講堂といわれ、耐震補強後の現在も威風堂々、入学・卒業の式典、音楽会会場、体育館として多目的に利用され、現在は国の『登録文化財』（国の建築物の宝）の指定を受け燦銀のように光彩を放っております。

本当に先進的な、学習に適した教室や実験室、それに歴史を秘めた建造物などに恵まれた環境で児童・生

徒は、これに応えるべく学習に運動に成果を挙げていることは誠に嬉しく、感謝にたえません。

また湯浅は醤油発祥地として全国の中学年で『郷土学習』の一つとして、醸造元の方を招いて、一人ひとり醤油づくりに尽力し、一年半程かけて出来あがった醤油、即ち「マイ醤油」を家族の方達と賞味しておりますが、昨年は和歌山国体で「なぎの里球場」での軟式野球の各県の選手に、この醤油を贈って喜ばれ「古い醸造文化の町湯浅」を児童一人ひとりがPRしてくれました。

今後「古い醸造文化の薫る町、心豊かに安心して元気に暮せる町」を目指して、120周年を機に、さらに町民の皆さまが参画しての町づくりに御尽力たまわらんことを祈念申し上げます。



湯浅町議会議長

松本典久

町制施行120周年を迎え、町民の皆さまとともに喜びします。

これからの湯浅町は豊かで住みよい活力に満ちたまちづくりを推進するため、観光資源を活用し地域の特色を活かし、住民が中心となる魅力ある地域づくりを進めていかなければならないと考えています。

120周年を迎えたことにより、湯浅町の魅力や特性を町内外にPRし、知名度向上を図っていきけるよう議会としても推進して参りたいと考えています。

また、近い将来起きるであろうと言われている南海トラフ巨大地震などに対応できる災害に強く、人を大切にするまちづくりの推進に力を合わせて取り組んでいきます。

私たち議員は、住民の代表としての自覚を新たにして、町の活性化と、今まで以上に暮らしやすく魅力あふれる町を目指して、取り組んでまい

ります。

皆さまが湯浅町に生まれたこと、住んでいることに自信と誇りを持っていただけるよう、農業・漁業の振興を図るとともに、安心安全なまちづくり、人口減少に対応した定住対策など、町民の皆さまと協働してより良いまちづくりに邁進してまいります。引き続き、皆さまのより一層のご指導ご鞭撻をお願いするとともに、ご多幸を祈念申し上げますお祝いの言葉いたします。